

製品・サービス動向-国内

■ヤマハ：数名から個人利用も想定した USB/Bluetooth 対応ポータブルスピーカーフォン「YVC-200」発売、個人利用から大規模会議室まで豊富なラインナップが揃う



YVC-200 (ヤマハ)

(プレスリリース:7月10日、取材:7月13日)

ヤマハ株式会社 (<https://jp.yamaha.com/>) (静岡県浜松市) は、数人から個人を想定した、コンパクトで持ち運び簡単な USB/Bluetooth 対応のポータブルスピーカーフォン「YVC-200」を9月に全国で発売する。

近年、働き方改革の一環として、“場所や時間にとらわれない”働き方“リモートワーク”が注目されている。今回販売開始する YVC-200 は、このリモートワークにおいて、Web 会議や電話会議を始めとする遠隔コミュニケーションのための“会話”の品質に着目した新製品。

ヤマハは、2006年に Web 会議用スピーカーフォン「Projectphone (PJP) シリーズ」を発売し、Web 会議システム市場に参入した。2014年には「PJP シリーズ」で培った技術をもとに「Yamaha Voice Communication(YVC)シリーズ」を発売。充実したサポート、品質・音質などで高い評価を受け、数多くの企業に導入実績があり、国内市場においてシェア No.1 を確立している。

そういった中、中規模から大規模会議まで対応する

「YVC-1000」のほか、6名程度の小規模会議室に最適な「YVC-300」といった現行モデルに加え、この度、数名～個人利用も想定した YVC-200 の発売により、利用人数に合わせた豊富なラインナップが揃うことになる。

YVC-200 は、360° の範囲をカバーする高性能無指向性マイク、45mm フルレンジスピーカーに加え、ヤマハ独自の音声信号処理を内蔵し、遠隔会議が利用可能なパソコンやスマートフォン、タブレットに接続するだけで、リモートワーク環境でも、“まるで同僚とオフィスで会話しているような”快適な会話を実現している。

音声信号処理においては、(1) 音切れなく双方向に言葉を伝え合える「適応型エコーキャンセラー」や、

(2) 人の声と周囲の雑音を聞き分ける「Human Voice Activity Detection(HVAD)」、(3) プロジェクターやエアコンなどのノイズ成分を除去し、クリアな声を伝える「ノイズリダクション」、(4) マイクに近い人と遠い人の音量を自動調整する「オートゲインコントロール」といった、ヤマハの技術が手のひらに収まるコンパクトなボディに搭載されている。利用する環境に自動で適応し、安定的に動作するので、いつでもどこからでも明瞭度の高い音声を遠隔地にいる相手に伝えることができる。

スピーカーは、小型ながらも最大で 88dB 出力可能なパワフルさ。まるで遠くにいる会話の相手がそばにいるような臨場感たっぷりの音声を耳元に届けることができる。加えて、低音の効いた音楽再生にも使えるスピーカーでもある。

一方 YVC-200 は、明瞭度の高い音質を実現しているだけでなく、リモートワーカーが遠くにいる相手とも

“スマート”に会話をスタートさせる工夫も施されている。



主な利用シーン 打ち合わせスペース（ヤマハ）



主な利用シーン 在宅勤務（ヤマハ）



主な利用シーン 外出先（ヤマハ）

本体は、専用ドライバーのインストールが不要な USB に加え、NFC 機能対応 Bluetooth の 2 つの接続方法に対応している。また、持ち運びに便利な最大 10 時間の連続通話が可能なリチウムイオンバッテリーを搭載している。バッテリー充電は USB バスパワーにて接続先のパソコンから給電する形になっている。

また、タッチセンサーボタンを採用することで、マ

イクミュート、スピーカーボリュームなど遠隔コミュニケーションで頻繁に使われる機能がインタラクティブで操作しやすくなっている。

さらには、操作のひと手間を省く便利な機能もある。たとえば、YVC-200 とスマートフォンを Bluetooth 接続、PC とは USB 接続しており、スマートフォンの音源を YVC-200 で聴いている最中に、PC に遠隔会議コールの着信があったとしよう。従来であれば、音楽再生をストップしたり、切替えボタンを押したりといった手動による操作が入るが、この YVC-200 ではスピーカーから流れていた音楽の音が自動で会議の音声の方に切り替わる仕組みになっている。同様に、スピーカーからヘッドセットへの切り替えも、ヘッドセットを端子に差し込み、本体がそれを認識することで、スピーカーからの音が消え、代わりにヘッドセットから聞こえるようになる。

こういった自動切替えといった機能はリモートワーク環境では有難い機能でもあり、操作に手間取ることなく素早く会議に入れるメリットがある。



個人利用から大規模会議室まで対応（ヤマハ）

本体は 0.28kg の軽量さに加え、スタイリッシュなデザインと白黒 2 色のカラーバリエーションを用意している。空間に溶け込むフォルムとシンプルなデザインで、オフィスのデスクや自宅のリビングなどあらゆるシチュエーションにフィットするとしている。さら

に付属のキャリーケースに入れてノートパソコンやモバイル端末と一緒にどこでも持ち出すことができるようになっている。

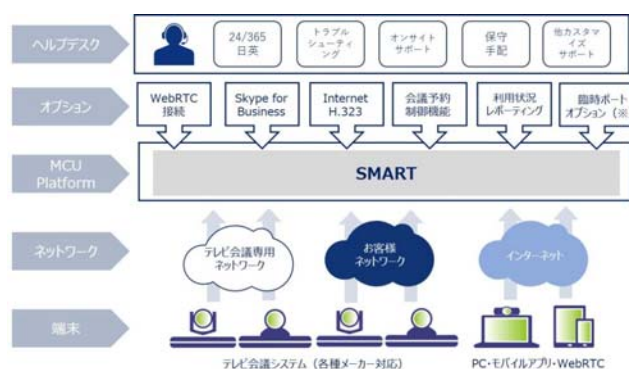
本体価格は 30,000 円（税抜）ヤマハの法人向け販売代理店や一般家電量販店、EC サイトを通じての販売を予定している。年間販売台数は 30,000 台を計画している。

■エヌ・ティ・ティ・ビズリンク：クラウド型映像コミュニケーションサービス「SMART Communication & Collaboration Cloud」の提供開始

(7月23日)

エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社 (<https://www.nttbiz.com/>) (東京都文京区、以下、NTT ビズリンク)は、クラウド型映像コミュニケーションサービス「SMART Communication & Collaboration Cloud」の提供開始を発表した。

SMART Communication & Collaboration Cloud は、過去 20 年/3,500 社以上の企業へ提供し、「ビデオ会議サービス」として 5 年連続シェア No.1 を獲得してきたテレビ会議サービスのノウハウを結集し、新たにさまざまな映像コミュニケーションツールを統合するクラウドサービス。



※今後提供予定

サービスイメージ (NTT ビズリンク)

このクラウドサービスでは、テレビ会議システム

(H.323)、PC やタブレット・スマートフォン、「Skype for Business」、さらに Web ブラウザ (WebRTC) からの参加を可能としている。

企業の求めるコミュニケーションには、「いつでもどこでも利用できる」と同時に、IP-VPN などの安定した閉域網接続も必要という。同社のサービスでは、安定・安心と、新しい働き方・働く場所、もちろんグローバルにも、全てに対応できるとしている。

また、提供するヘルプデスクは、法人向けテレビ会議/Web 会議専門サポート窓口として 20 年の運用実績がある。電話受付は、契約担当者だけでなく全ての利用者から直接受け付けており、エンドツーエンドで端末の操作方法までサポートする。

さらに、クラウドサービスであるため、常に最新のニーズにあわせながら、無駄なくその時に必要な機能をアドオンのように利用できるようになっている。

今後については、今年 11 月リリース予定の会議模様の録画機能のほか、議事録作成補助機能、英語をはじめとする多言語への翻訳機能などの開発を進めており、SMART Communication & Collaboration Cloud は更なる進化を予定している。

■ブイキューブ：コニカミノルタと協働でインフラ・建設業などの働き方改革を推進する遠隔作業ソリューションを先行販売開始

(7月13日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都目黒区) は、コニカミノルタ株式会社 (<https://www.konicaminolta.com/jp-ja/index.html>) (東京都千代田区) が開発したメガネ型ウェアラブル端末に、ブイキューブがコニカミノルタ向けに開発した専用ソフトウェアを搭載し、7月17日より両社は遠隔作業ソリューションとして協働で先行販売を開始すると発表。

今回発表された遠隔作業ソリューションは、インフ

ラ、建設、製造業、物流における現場での働き方改革に最適化されたもので、コニカミノルタが開発したメガネ型ウェアラブル端末「WCc(Wearable Communicator、ウェアラブルコミュニケーター)」に、ブイキューブがコニカミノルタ向けに開発した遠隔作業支援ソリューション「Smart Eye Sync(スマートアイシンク)」を搭載している。

WCcは、従来のヘッドマウントディスプレイにおいて課題として挙げられる「大きい、重い、視界を遮る」という問題を改善している。利用者は違和感なくハンズフリーで作業しながら、用途に応じた情報を活用し業務の効率化を実現できるという。



WCc本体



装着シーン

WCc 本体、装着シーン (ブイキューブ)

一方、ブイキューブの Smart Eye Sync は、これまで PC やスマートフォン向けに提供してきた「xSync Prime」に比べ、よりウェアラブル端末の操作に最適化した機能を追求しているところが特徴。たとえば、通信状態が悪い現場でも高画質な映像と音声を届けることが可能であり、現場のリアルタイム映像を本部側から録画や静止画を撮影したり、画面に書き込みを加えたり、その場で多地点と共有・展開することができる。

Smart Eye Sync 搭載の WCc の特徴については以下の通り。

(1) 安全に作業ができる広い画角を確保しながら、従来と変わらない動作で作業が可能となっている。端末は 35g と一般的な眼鏡と変わらない重さのため、余計な疲労を与えないという。ヘルメットとの併用も可能で、保護ゴーグルの上からも装着できる。また、ウェアラブル端末のコントローラにはハードボタンを採用し、手袋をしたままでも安全操作が可能となっている。

(2) 遠隔作業支援に必須の機能をワンストップに提供している。本部からの呼出しがあった際には、ハードボタンを押すだけで通信が開始できる。また、現場のスタッフは作業中にメガネ型ウェアラブル端末を操作する必要がない。端末から送信された現場の映像を本部側から録画や静止画を撮影したり、画面に書き込みを加えたり、その場で多拠点に共有することができる。

ワンタッチで操作可能な
ハードボタンコントローラー

共通画面に書き込みが行われているイメージ

ハードボタンコントローラ、画面への書き込みイメージ (ブイキューブ)

(3) 2つのカメラを本部から自由に切り替えできる機能を開発し、ファイバースコープで手元や遠くの細かなズーム映像を映せる。現場のスタッフは被写体に近づく必要がなく遠隔からでも詳細な映像を確認できる。



WCcのカメラ



切替え



外付けカメラ

WCc カメラの切り替えイメージ (ブイキューブ)

今後については、今回のような取り組みを加速し、現場のニーズに応じたサービス開発を進め、インフラや建設業といった現場に関わる働き方改革に最適なソリューションを提供していく。

PR

(広告掲載順)

■ヤマハ株式会社

USB スピーカーフォン FLX UC 500

https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/flx_uc_500/index

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報 (7月～8月)

失敗しない「Web 会議」、「テレビ会議」の選び方徹底解説セミナー、災害現場の今を共有出来ていますか？災害発生の混乱時、意思決定のスピードと質を向上など

会場 (東京・大阪・名古屋・Web セミナー)

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■手軽にはじめられる遠隔コミュニケーションシステムのご紹介～RICOH UCS で、いつでも・どこでも、だれでも・だれとでも繋がります！～

日時：8月2日(木) 13:15～16:30 (受付：13:00 より) *1時間のセミナーを2回開催。同内容。

会場：リコージャパン 晴海トリトン事業所

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：

<http://www.ricoh.co.jp/event/seminar/18K207.html>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNA.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回 (プレスリリースと取材に基づく記事) ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック (遠隔会議&UC トレンドワッチ)

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter (CNA レポート・ジャパン)

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト (dtc-forum)

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

■PDFファイル版 (1号毎PDFファイル)

>2003年～2018年最新号 (1号毎PDFファイル)

<http://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

■電子ブック版 (複数号まとめているのもあります)

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2017年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 2018年7月31日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp